

## 千葉市ふれあい自然観察会

### 市の鳥コアジサシと海辺の生き物観察

平田 稚江子（千葉市）

日 時：2022年6月18日（土） 13:00～15:00 天候：くもり

場 所：検見川の浜（千葉市）

参加者：22名（大人11名 子ども11名） 参加指導員 浦部 本多

担当指導員：田島 中田 梅宮 平田 事務局：伊藤

下見の時には7～8羽上空を旋回し、海に飛び込んで魚を採っていたコアジサシですが、本番の今日はどんな状況か、薄曇りの上空を見上げて、観察会が始まりました。

まず浜に出る前にコアジサシについて、絶滅危惧種であること、市民の公募で千葉市の鳥になったこと、この検見川の浜で子育てをするようになり、ロープを張って保護に取り組んでいることなどを話し、コアジサシの生態についてはクイズをしながら解説しました。子どもたちも集中してよく聞いていました。浜に向かうと2羽が上空を旋回し姿を見せてくれました。コアジサシについては事前に話をして理解を深められ良かったと思います。



浜に出ると、まず、二枚貝を使った海水の浄化実験を行いました。米のとぎ汁を海水に入れ、濁った海水を2つ用意し一方に貝を入れます。そして、終了時に確認するという仕掛けです。さて、潮が引いた干潟の上には透明な袋があちこちに、子どもたちは「これなあに？」と不思議そう。タマシキゴカイの卵囊です。タマシキゴカイのモンブラン状になった糞もたくさんありました。ヤドカリやカニもたくさんいて、子どもたちは大喜びで採集し、突堤に付いているタテジマイソギンチャクを指で突つくとピューッと水を飛ばす姿に驚いていました。さらに、子どもたちは牛乳パックで作ったスタジアムの上でのヤドカリ競争、大いに盛り上がりました。最後に、採集した生き物の解説を行いました。また、見事に二枚貝によって浄化された海水を前に、大人も子どもも感嘆の声を上げていました。人工の干潟でも多くの生き物がいることが分かり、環境を守っていくことの大切さを学んだひと時となりました。



ヤドカリ競争・・・よーいドン



採集した生き物 25～6種ありました！